

# 第3回 熊本いいくに会 いいくに塾

## 講演：『熊本の文化・伝統・芸術と地球生活』

～さらに美しい熊本をめざして～

講師：熊本県文化協会 専務理事 大江 捷也 先生

参加者数：約60名



熊本を学び  
熊本再生の知恵を  
伝授して頂きます

今回のいいくに塾は、熊本はもとより、歴史や文化・芸術などありとあらゆる豊富な知識を幅広くお持ちで、熊本の知識の宝といえるべき、熊本県文化協会 専務理事の大江 捷也 先生をお招きし、熊本の誇るべき文化や歴史、そしてこれまで大江先生がなされた多くの貴重な活動、またこれからの熊本の発展に向けての貴重な知恵をお話いただきました。

大変多くの方に参加  
いただき  
超満席！

今回は、予定を上回るご参加をいただき、ありがとうございました。予備席を用意しましたが、不足が出てしまったことをお詫び申し上げます。



### 大江先生の豊富な知識と 熊本の文化や歴史の新たな発見

大江先生のおふれ出る熊本の文化や歴史についての知識に、参加者の皆様方も新たな発見があったのではないのでしょうか？

また、熊本学園大学に移設された海老原喜之助氏の「蝶」の壁画が熊本に誕生した経緯や、その存続のために大江先生をはじめ多くの方々のご努力があった事などもお話いただきました。



### 熊本らしい祭りに 新たな熊本再発信の鍵があるのでは？

今年からはじめられる“走馬灯”についてや、熊本いいくに会も取り組んでいる“みずあかり”など、熊本敵個性のあるものを独創的に形にし、誰もが参加しやすい形で残していく事が今後の文化の継承にもつながり、熊本の魅力となって観光の大きな要素にもなる。

熊本の人が魅力を感じ楽しむことがもっとも大切であり、そういったものこそ、他県・他国の人にも興味・魅力・感動をあたえる。



# 大江捷也 行動基準語録

一、芸術活動は限りなき自我の主張であるが、文化運動は限りなき妥協の連続である。

二、文化は、異質の共存を尊重するところから生まれ、育つ。

三、最も個性的なものは、ユニバーサルである。最も個性的なものを、最も独創的に表現することを芸術という。

四、未来は、常に過去よりも大きく、過去よりも重い。しかし、誰も未来を見た者はいない。本当の未来を目に映じようとするならば、本当の過去を知らなければならぬ。

五、故郷を愛することが目的ではない。故郷を愛しようとするプロセスが目的である。

六、人間は、人間を大切にすることによって、人間らしくなる。人間はより人間らしく生きるために、学び続け、行動の指標をもつ必要がある。その行動の指標を志という。

七、身分不相応の志を野心というが、身分不相応と評価するのは他者であり、本人ではない。身分不相応な願望は志と呼ばない。志とは本人にとっては切実な願望である。本人が全てを懸ける究極の志を大志という。他者が野心と評価するものこそ本当の大志である。

## 大江捷也 行動基準語録

会場でもお配りしました。大江先生の行動基準語録です。会場では全員の方にいきわたらなかつたことをお詫び申し上げます。

大江先生への質問も相次ぎ！時間一杯

講演最後の質問も、近代経営研究所の栗谷社長(写真下右)と、近代経営研究所の松崎氏(写真下中)と、東光石油の石原社長(写真下左)からありました。  
まだまだ多くの方からの質問があったかと思いますが、時間の都合上終わらせていただきました。



最後に、熊本いいくに会トイレバスターズから今後の活動についてのお知らせ

一家に一鉢「肥後花菖蒲」

大江先生の講演でもご提案いただきました。『一家に一鉢、肥後花菖蒲』活動を広げ、無くなりつつある肥後六花の中の肥後花菖蒲を我々いいくに会が中心となり守って生きたい。熊本の文化を守りつつ、人と人との結びつきや熊本を思ふ心を広げたい。…と熊本いいくに会社員会の中村氏(株ヒライ)より



肥後花菖蒲

